

第4次男女平等推進計画  
町田市男女平等推進会議からの評価・総評案（2021年度事業）

めざすべき姿Ⅰ 一人ひとりの人権を尊重するまち  
基本施策1 お互いを尊重し合う意識の醸成

男女平等推進会議		
評価年度	評価	総 評（2021年度実施分）
2022	★★	<p>情報提供の方法として、広報まちだやホームページの活用は定着しているが、情報提供は紙媒体が中心の提供型が主である。</p> <p>今後は、SNSをはじめとするデジタル媒体（拡散性や繰り返し視聴可能といったメリットがある）の活用や、イベント時に関連情報として周知するといった工夫を検討されたい。</p> <p>また、2022年10月には東京都のパートナーシップ宣誓制度が始まるなど、性の多様性については、変化も大きいため、社会状況にあった教育に努めていただきたい。</p>
委員コメント		
<p>○全体的に、前年度を踏襲した取り組みが多い。「教育と指導」や「情報や資料等の収集・提供」などの取り組みに対しては、もう少しやり方を考える必要がある。</p> <p>○「学習機会の提供と支援」については、所管課が実施講座の内容に工夫して取り組んでいることがわかる。参加人数等の成果が下がっている取り組みもあるものの、効果的な取り組みであると評価する。</p> <p>○「職員の意識を高めるための研修等の実施」について、所管課が考えて取り組んでいることが伝わり効果的である。</p> <p>○各種講座・イベント、男女平等フェスティバルについては、テーマを工夫して実施し、参加者が様々な気づきを得ていることから一定の成果をあげており評価できる。</p> <p>○男女平等推進センターなど資料の貸出は、存在自体を知らない人が多いと思われ、改善の余地があるのではないかと。</p> <p>○男女平等参画条例については、他自治体等の動向を踏まえ、SDGsの目標やパートナーシップ制度との関係性を整理し、今後の検討につなげられたい。</p>		

めざすべき姿Ⅰ 一人ひとりの人権を尊重するまち  
基本施策2 男女間のあらゆる暴力の根絶

男女平等推進会議		
評価年度	評価	総 評（2021年度実施分）
2022	★★	<p>新しい取り組みは少なかったようだが、講座をオンラインで開催するなど、工夫して事業を継続することができた。新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に軽減されている状況の中で、実施する事業のタイプに応じた手法の使い分けが進展した年度であったと理解する。</p> <p>地道な取り組みが求められるものばかりではあるが、その中で当事者とのかかわり方や当該当事者と関係を有する可能性のある人たちへの啓発は、この問題への意識が浸透するまで息の長い取り組みになると思う。</p> <p>今後も社会情勢の変化に柔軟に対応し、あらゆる場面で暴力は許さないという意識の醸成に努めてほしい。</p>
委員コメント		
<p>○大学等における講座開催や相談先の周知カードの設置により、若年層向けの普及啓発を行うことができた。</p> <p>○近年、SNSを使い匿名で誹謗中傷を行うなど暴力が多様化、複雑化している。</p> <p>○現状では効果的である取り組みも、社会情勢などの変化により見直しを迫られるものもあるため、時折立ち止まっただけの振り返りが必要である。</p>		

めざすべき姿Ⅰ 一人ひとりの人権を尊重するまち  
基本施策3 生涯を通じた男女の健康支援

男女平等推進会議		
評価年度	評価	総 評（2021年度実施分）
2022	★★	<p>検査・検診体制や性・健康にかかる相談事業は、検査者数や相談件数が着実に伸びており、積極的な取り組みが評価できる。また、健康支援のための啓発や講座への取り組みについても、前年度を上回る実績をあげており積極的に取り組んできていることがうかがえる。</p> <p>小・中学校における人権尊重の視点に立った性教育の充実については、例年どおりの実績をあげており一定の評価はする。</p> <p>一方で、2020年度と2021年度の違いが見受けられない事業も多くあった。性教育や各種相談事業などは、確実に実施されることが重要であるが、事業内容の更新も必要である。</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、新たな取り組みを考えていく必要がある。</p>
委員コメント		
<p>〇乳がんやがん検診の普及啓発については、新しい媒体も活用しながら、積極的にすすめることができ、女性のがん検診の受診者数も増加した一方で、HIV・性感染症の検査相談事業は、新型コロナウイルス感染症の影響が続いている。</p>		

## めざすべき姿Ⅱ 一人ひとりが個性と能力を生かして活躍できるまち

### 基本施策1 雇用や職業等の場における男女平等参画の推進

男女平等推進会議		
評価年度	評価	総 評（2021年度実施分）
2022	★★★★	<p>コロナ禍ではあったが、感染対策を取って、新たなセミナー開催や中止としていた就職準備セミナーの開催などに取り組んだことで、企業や事業者等のワークライフバランスや育児・介護に関する制度の理解や周知が進んだといえる。</p> <p>また、市職員を対象とした取り組みとして、時差勤務の運用面の見直しやオフサイトミーティングなどを行っており、職場環境の改善が進んだことが評価できる。</p> <p>今後もコロナ禍の状況は続くと思われるが、今までの取り組みだけでなく、目的に対する成果を再確認し、視点の見方を変えて新たな雇用や職場等における男女平等参画の推進を図られてみてはどうか。</p>
委員コメント		
<p>○企業や事業者等に対する啓発チラシや、「町田市仕事と家庭の両立推進企業賞」の表彰制度や受賞者を紹介するパンフレットの配布によって、事業者へのワーク・ライフ・バランスや育児・介護休業に関する制度の理解や周知を進めることができたと考える。</p> <p>○市職員を対象として、オフサイトミーティングや座談会など、管理職選考の対象となる女性係長級に対して昇任意欲の向上を図る取り組みを進めているほか、現役の女性管理職を紹介する情報紙を発行するなど、女性管理職のイメージが職員全体に共有され、男女がともに働きやすい職場環境に向けた取り組みができたと考える。</p> <p>○育休明けの職場復帰支援をテーマにしたセミナーや受講者同時のコミュニティ形成を促す取り組みを実施した女性創業スクールなど、新たな視点で働きかけを行うことで参加者から高い評価をいただけたので、女性が就業生活で活躍できるよう、適切に支援できていると考える。</p> <p>○女性への再就職支援、起業支援などでは、女性創業スクールにおけるカリキュラムの見直しなどによって、女性の就労に関する相談機会を充実させることができています。</p> <p>○オンラインでのセミナー実施や講座の代替としてパネル展示での啓発を行うなど、創意工夫を行い取り組んだことで、企業や事業者等の、ワークライフバランスや育児・介護に関する制度の理解や周知が参加者の感想から進展しているところを評価する。</p> <p>○市内中小企業へのワークライフバランスの推進支援などを一歩進めるため、デジタル技術などを活用する手法も良いかと思う。</p>		

## めざすべき姿Ⅱ 一人ひとりが個性と能力を生かして活躍できるまち

### 基本施策2 仕事と家庭の調和に向けた育児・介護の支援

男女平等推進会議		
評価年度	評価	総 評（2021年度実施分）
2022	★★★	<p>子育てに対する支援については、保育環境の拡充が図られた。介護に対する支援については、家族介護者へのサポートが強化された。</p> <p>また、各課で実施している相談事業やイベント等においても参加者数が前年比を大きく上回っており、コロナ感染予防策を徹底したうえ手法等を工夫して成果を上げている点は評価できる。</p> <p>今後は、コロナ禍においても相談しやすい体制及びSNS等の活用を含めた情報提供の充実に向け、引き続き研究してほしい。また、市民ニーズを把握・分析しながら各事業を推進してほしい。</p>
委員コメント		
<p>○介護に対する支援については、家族介護者交流会の実施回数を増やすなどして、家族介護者の精神面のサポートを強化している。</p> <p>○延長保育、一次保育、学童一時預かり、送迎保育ステーション、さらには病児保育の取組拡充など、多様な保育ニーズに応えられており、コロナ禍においても保護者が安心して就労できることに繋がっている。このことは男女ともに希望する働き方を実現することにも繋がると考えられ評価できる。</p> <p>○介護者のワークライフバランスを保つためには、利用できるサービスを知ってもらうため、介護保険に関する情報周知を継続して行うことが重要である。</p>		

## めざすべき姿Ⅱ 一人ひとりが個性と能力を生かして活躍できるまち

### 基本施策3 地域における男女平等参画の推進

男女平等推進会議		
評価年度	評価	総 評（2021年度実施分）
2022	★★	<p>講演会や各種事業等への女性参加者の割合を向上させる取り組みについては、長引くコロナ禍の影響等により引き続き厳しい状況が見て取れる。しかしながら、内容等の工夫により前年を上回る成果を得ている取り組みもある。このような状況においても何ができるか、このような状況だからこそ何をすべきかという志向で、取り組みを進展させていくことが求められる。</p> <p>また、各種付属機関等の女性委員等の割合の向上については、これまでの継続した働きかけ等により微増となっており、選考する際の所管課の女性登用意識は高まっていると思われる。引き続き、所管課に対する意識付けや委員選任の際のチェックシートを作成するなど、目標達成に向けて取り組む必要がある。</p>
委員コメント		
<p>○重症化リスクの高い高齢者等を対象とした事業の、積極的展開が難しいことについては致し方のない所か。</p> <p>○自主防災組織リーダー講習会の女性の参加割合が、2020年度に比べ9.2ポイント増加したのは、講演内容が女性の関心を惹くものであったのではないかと思われる。今後は更に、女性の参加を促す内容をアンケートで聞くなど、市民に自分事と思って参加してもらえる工夫が求められる。</p> <p>○2021年度は、防災講座などは新型コロナウイルス感染症の影響で参加者が少なかったこともあり防災に対する十分な周知ができなかったと思う。</p> <p>○地域活動の参加しやすい環境づくりにおいては、地区協議会で活動されている方の紹介等を行っているが、女性にスポットを当てて紹介することで、より女性参加の促進に寄与するのではと感じた。</p> <p>○「まちカフェ！」は、2020年度と同様の開催となったが、オンラインによる開催を手厚くしたことにより、来場者が約1,000人増加したことは評価に値する。また、地区協議会活動報告冊子「The Road 町田人」を新たに発行し、地域で活動している人を紹介することで、新たな人材の育成に繋がることが期待される。</p> <p>○地域活動の重要性や情報伝達方法など、男女問わず参加できるように周知方法など工夫する必要がある。</p>		